



第 20 号

(2025年3月21日 発行)

安城保護区保護司会

発行責任者 石川 誠

編集

安城市社会福祉課内
安城保護区保護司会
総務部会

ごあいさつ

名古屋保護観察所 所長 調子 康弘



安城保護区保護司会の皆様におかれましては、日頃から罪を犯した人や非行少年の立ち直りにご尽力いただき、感謝申し上げます。

このたび安城保護司会は70周年を迎えられました。お祝いを申し上げますとともに、70年の長きにわたり安城のために活動してこられた方々に敬意と感謝を申し上げる次第です。

安城保護司会の行事に参加させていただくと、皆様がチームワークよく活動に取り組んでおられることが伝わり、とても素晴らしいことだといつも感じております。

また、令和6年には滋賀県の保護司が亡くなる事件が発生し、保護観察所では「自宅以外の面接場所の確保」などに取り組んでおりますが、安城保護司会ではかねてから安城市との連携を進められ、市内各所に面接場所を確保してこられました。先を見越して配慮、工夫を重ねてこられたことに頭が下がる思いです。

近年減少してきた保護観察事件数は、若干増えるきざしがあり、再犯防止はますます重要なとなります。

これからも安城の安全、安心のため保護司会の皆様とともにしつかり取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

安全な地域社会を築くため

安城市福祉部長 近藤 俊也



保護司の皆様におかれましては、社会を明るくする運動をはじめ、再犯防止及び更生保護活動にご尽力いただき、深く感謝申し上げます。またこの度、安城

保護区保護司会が70周年を迎えられましたこと、心よりお喜び申し上げます。70年に亘つて引き継がれた皆さまの献身的な活動は、地域に根差し、更生保護活動の充実・発展につながってきたことだと思います。改めてここに敬意を表します。

さて、本市では、「第5次安城市地域福祉計画」と一体的に「再犯防止推進計画」を策定しました。近年、犯罪件数は減少しているものの、再犯が占める割合は増加しており、安全安心な地域社会を実現するためには、再犯をいかに防止するかが課題となります。引き続き、「社会を明るくする運動」の広報・啓発活動や保護司会をはじめとした更生保護団体との協力・支援を実施してまいります。

保護司の皆様におかれましても、やり直したいと願う方々に寄り添い、再出発を支えていただくことを期待しております。

安城保護区保護司会70周年記念事業を終えて

周年事業委員会 委員長 稲垣 正義

安城保護区は、昭和29年（1954）に発足し今年度で70年を迎えました。これまで、更生保護活動にご尽力いただいた多くの先輩保護司の皆さん、そしてその活動を支援いただいた更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会の皆様のお陰で犯罪のない社会を目指し、「社会を明るくする運動」や「青少年健全育成」、「再犯防止」、「就労支援」など共に活動できたことに感謝申し上げます。

コロナ感染症の行動制限が続く令和4年11月には、当市において20年ぶりに「愛知県更生保護大会」が開催され多くの皆様のご協力で無事に終えることができたことは、記憶に新しいこと

です。

そして、これまで安城保護区の長年の念願であつた「周年事業」の開催に当たっては、準備委員会を設置し周到な準備を進め、令和7年2月8日に安城市及び名古屋保護観察所、西三河地域の保護司会等関係者をお招きし「へきしんギヤラクシープラザ」（安城市文化センター）において、記念式典と杉山裕太郎氏による記念講演会を開催し、盛況の内に終えることができました。

また、「70周年記念誌」を発行し一連の関連記念事業を終えることは、節目ごとに安城保護区の活動の足跡を記録として残し、今後もこの活動が継承されることを切に願っています。



70周年記念事業式典



石川誠会長挨拶



稻垣正義周年事業委員長 謝辞

安城保護区保護司会 70周年記念講演

令和7年2月8日(土)
午後1時30分～(午後1時開場)

会場

へきしんギャラクシープラザ
マツバホール(文化センター)

講師

魂のヴォーカリスト
杉山 裕太郎 氏



～愛や絆、夢を持つことの大切さを歌に乗せて伝える～

講演内容

親子の絆

～どん底の中で見つけたヒカリ～

いじめ、自殺、虐待、非行、薬物乱用といった悲劇の抑止力となる親子の絆と夢を持つ大切さを、ご自身の更生体験と、心に響く“魂の歌声”を交えてお話し頂きます。



石川誠会長 お礼の言葉

令和6年度 栄誉に輝いた方々

愛知県更生保護大会(令和6年11月15日)

法務大臣表彰
全国保護司連盟理事長表彰
中部地方更生保護委員会委員長表彰
中部地方保護司連盟会長表彰

名古屋保護観察所長表彰
名古屋保護観察所長感謝状(家族功労)
名古屋保護観察所長感謝状(保護司会事務協力者)
愛知県保護司会連合会長表彰

安城市発展祭(令和6年5月10日)

一般功労者表彰

(安城市関係分)

稻垣美保子	神谷 美砂
三浦 正喜	狩野多喜子
服部 和光	木村 忠弘
梅村 正一	神谷 豊治
石川 翼	早川 守
山口 順子	杉浦 博之
内藤 和光	山本 康孝
清水 信行	
稻垣 龍行	
水野 愛美	
寺田 覚	
神谷 清隆	

三浦 正喜

(敬称略・順不同)

第74回社会を明るくする運動

犯罪予防部会 杉浦 清治

令和6年度の「社会を明るくする運動」は7月1日に桜井中学校区を重点地区としてアピタ安城南店の街頭啓発を皮切りに各学区で行われました。当日は天候の影響もあり、来客者は少なめでしたが、参加者の熱意により多くの方々に啓発物品を受け取っていただき運動の理解を得ることができました。

ミニ集会も各学区それぞれに工夫し10会場、延べ480名余の参加をいただき犯罪予防について話し合

われ地域の皆様と有意義な集会を開くことができました。

標語・作文コンテストには、小中学生標語3,976点、作文316点、一般の部標語47点の応募がありました。そして、9月29日に安城市アンフォーレにて入賞作品36点の表彰式を開催しました。満員の聴衆の中、県大会で優秀な賞を受賞された安城北中学校の吹奏楽部の演奏で式を盛り上げていただき、一連の運動を盛大に終えることができました。



作文コンテスト表彰者



安城北中学校吹奏楽部の演奏

標語・作文コンテスト入賞作品(安城市標語・作文コンテスト)

小中学生の部

標語の部 【応募数:3,976点】

最優秀賞

「『ありがとう』 たった5文字で あふれる笑顔」
「言わないよ じぶんがいわれて いやなこと」

野口 拓 (桜林小学校5年)
二宮 大雅 (二本木小学校3年)

優秀賞

「ありがとう 笑顔あふれる あい言葉」
「スマホでは 教えてくれない 大事な絆」
「気づこうよ 言葉のナイフが 痛いこと」
「思いやり 小さな優しさ 大きな救い」

北川 心陽 (作野小学校4年)
中村 萌愛 (安城北中学校1年)
森本 紗和 (安城西中学校1年)
渡邊 真央 (安城西中学校2年)

入選

大岡 樹 (安城北中学校2年)
ファルゲラ アレクシス リアム (安城西部小学校5年)
浅井 蒼空 (二本木小学校3年)

長澤 到也 (安城北中学校3年)
山本望緒里 (桜井小学校6年)
登 富夫 (安城北部小学校6年)

作文の部 【応募数:316点】

最優秀賞

「つながりの輪をつくりよう」
「再犯を防止するにはどうすればよいか」

牛込 帆香 (里町小学校6年)
高橋 茉 (作野小学校6年)

優秀賞

「私を変えたてっぺん」
「あいさつで明るい未来を」
「明るい社会とは」
「お礼とあいさつ」

水野紗也香 (安城南中学校3年)
鳥居 葵 (二本木小学校5年)
中村野々花 (二本木小学校6年)
三浦 咲希 (安城西中学校1年)

入選

鈴木 渉馬 (東山中学校2年)
杉浦 紗音 (今池小学校6年)
萬木 日心 (錦町小学校6年)

中塩屋 秀 (安城南部小学校3年)
樋口ななか (桜井小学校6年)
北川 紗奈 (三河安城小学校6年)

標語の部 【応募数:47点】

最優秀賞

「信じてる あなたの返事 嘘じゃない」
「大丈夫 あなたを待ってる ひとがいる」

東郷 宏美
松井 志帆

優秀賞

「あいさつで 繋がる地域 みな笑顔」
「おはようと 自分が先に 言ってみる」
「真っ直ぐに 育てと願う 父母の愛」
「沈んだ心に明りをくれた 今だから言えるありがとう」

羽淵健一郎
羽淵 紗香
萩原 慎一
梅村 晴奈

入選

福 華奈 大見真理子 倉地 弘志 三石 友美 新美 晶子 犬山 将吾

出会い

安城保護区 保護司 T・K

役割をよくわからず引き受けた保護司。研修では「犯罪者の更生」と聞き主婦の自分に務まるのか不安でした。一般的には非行少年が対象者との認識ですが、実際は成人まで全ての保護観察対象者が含まれていることを知りました。初めての対象者との面談では、何をどう聞き、どうアドバイスすればよいか不安だらけのスタートでした。先輩からはまず相手との信頼関係を築くためよく話を聞き、どんな環境で何を思っているか聞き出すことが大切とご指導を受けました。

それから18年、保護観察期間は様々で数か月から長い場合で3年以上の方もありました。未成年の場合は何度も時間や遵守事項を無視されながらも、根気よく自分の子供に接するように心がけました。時間をかけて次第に打ち解け合えるようになり、生活態度が少しずつ改善されてきたときはほっと心がなごみ

ました。多くの先輩方や対象者とかかわる中で、悩んだり喜んだり考えたりしながら協力して行動できたことは、大変勉強になり良い経験ができたと思います。これからも更生しようとする人の少しでも助けになれるよう努力したいと思います。



私の保護観察での思い出

安城保護区 保護司 K・G

私が観察官から保護観察の依頼を受けたのは、新任保護司の委嘱辞令を受けてから10日も過ぎない頃でした。「就任早々からのお願いですが、引き受けていただけますか」と言われ、了承したのが始まりです。

その後、76歳の定年を迎えるまでの15年余、対象者が途絶えたことはほとんど無かつたように記憶しています。

初めて担当したのは、15歳の腕白な少年でした。保護観察期間中も万引き等で警察の世話にもなりましたが、正義感が強く、明るい性格でした。そこで、面談の時、苦手の教科を教えたり、職場面接の時一緒に会社に出向いたりして、真剣に支援したことを今でも覚えています。

正確には覚えていませんが、観察件数として20件以上、年齢層は10代から70代までと幅広く受け持ちました。

私の保護観察での特筆すべきことがあるとすれば、対象者の少年や少女が犯罪や非行に走った要因が親子関係や交友関係にあると感じたとき、直ぐさま、対象者の両親を自宅に招いて意見交換し、対象者への注意喚起(夜間外出、交友関係、持ち物チェック等)をお願いしたことです。このことにより、対象者が親子関係を修復することができ、両親から感謝の手紙をいただきました。保護司として、大変良い思い出の一つとなっています。



二 保護司会各部会の活動紹介

福井刑務所の視察をして

令和6年10月7日に福井市の福井刑務所を視察しました。この福井刑務所は、明治4年に因獄署として設置され、時代を経て、昭和25年に刑務所として発足しました。昭和58年総合職業訓練施設の指定を受け、平成16年収容棟等増築工事竣工、現在に至ります。施設面積は東京ドームよりやや小さめで、458名の収容に対し、118名の職員がいます。

福井刑務所は、名古屋矯正管区内の刑事施設で、刑の確定した26歳以上の犯罪傾向の進んでいない男子受刑者を収容し、スムーズに社会復帰を図るための教育訓練を実施しています。

そして、出所後の生活に役立たせるための木工、洋裁、皮工、日用雑貨品の検品・組立・包装などの刑務作業を行うほか、職業訓練施設として、溶接科では「ガス溶接技能講習終了証」、電気通信設備科では「危険物取扱者免許状(乙種)」の資格取得のために、内装施工科、介護福祉科、農業園芸科それぞれで必要な訓練を実施しています。

就業時間は、1日8時間を超えない範囲で、作業報奨

研修部会 白谷 隆子

金は釈放時に渡しています。余暇活動や衛生・医療も充実しています。衣類や寝具は季節に応じて貸与され、給食は労働の程度に応じて2,220~2,620kcalと決められています。面会は、受刑者が手紙のやり取りで自分が決め、予約制ではありません。

今回、私にとって初めての刑務所視察でしたが、現場を自分の目で確認することができ、また、直接刑務官の方々と話や質問ができ、大変有意義な視察となりました。



福井刑務所にて

ステップアップ研修を終えて

研修部会 筒井 広治

私は、保護司になって日が浅く、また、現在の対象者との面接にも、ようやく慣れてきたタイミングでのステップアップ研修会でしたので、非常に参考になりました。やはり、人間は、それぞれの環境によって、性格も変わるように、いろいろな人がいるのだということがわかりました。

女性の対象者が、保護司の知らないうちに妊娠して、子供を産んでしまい、連絡もなく実家に戻ってしまうことがあったそうです。そして、対象者の実家の祖父母は、もともと担当保護司の知っている人だったという思わぬ展開もあるようです。男性である私は、女性の身体のことや心理的なことはよく分からぬので、このような例を聞いて、大変参考になりました。

また、対象者と面接するのに、「仕事場に来てくれ」と言われ、営業の間の空き時間に合わせ、電車で30分もかけて通っていたとの話を聞きました。地元の公共施設で面接している私の場合は、恵まれていると思いました。

このような事例を参考にした研修会での情報交換はとても有意義なものだと感じました。



グループでの情報交換

犯罪予防部会の活動内容

犯罪予防部会 部会長 塚本 和彦

第74回社会を明るくする運動の活動は、令和6年6月19日の安城市推進委員会以後、本格的に動き始めました。7月1日に一斉街頭啓発活動を重点地区となつた桜井中学校区の「アピタ安城南店」で実施しました。朝からの雨空でしたが、午前11時から副市長、保護観察官、市議会議員、町内会長、校長、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会の協力を得て保護司含め31人体制で啓発物品を来店者へ配布しました。配布時には時折青空ものぞき、来店者も気持ちよく啓発物品を受け取ってもらいました。

また、ミニ集会は8学区10会場で開催し、延べ480名余の参加をいただきました。各学区とも地域の特色を生かしたテーマを設定し、講話、懇談会、パネルディ

スカッション、グループ討論等で活発な話し合いが行われました。今年度は、保護司会活動を支えていただいている更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会も積極的に参加していただき延べ40名の出席をいただきました。

今までなく有意義な集会になりました。



一斉街頭啓発活動

育成指導部会の活動

育成指導部会 部会長 山本 康孝

令和6年9月4日、コレワーク中部矯正就労支援情報センター室の鈴木敬幸室長をお招きし、就労支援研修会を開催しました。安城保護区協力雇用主会からも6社が参加されました。雇用主が必要とする人材を全国の刑務所から探し、雇用主と希望する受刑者をつなぎ、再犯防止を目指していることを伝えていただきました。

12月4日は、保護司会・更生保護女性会合同研修会を開催しました。『かかわりにくい子どもを理解するために』をテーマに、臨床心理士の山岡美和先生の講話をいただきました。発達障害・愛着障害の症例別に、その子たちそれぞれの個性や言動の傾向に加え、対応と

支援のポイントを教えていただきました。対象者や子どもたちとの対応に関して、有意義な内容でした。

自分たちの経験や困り感を伝え、互いに相談し、支え合うことができる組織づくりが大切なことを教えていただきました。



就労支援研修会

「薬物乱用のない社会」を目指して活動!

薬物乱用防止指導員 代表 安藤 義美

「薬物乱用はダメ! ゼッタイ!」この合言葉のもと、私たち指導員9名は、「6・23ヤングキャンペーン」を皮切りに、「社会を明るくする運動」、「安城七夕まつりヤングキャンペーン」、「麻薬・覚せい剤・大麻乱用防止運動」などの街頭啓発活動を行いました。そして、中学校区ごとに行われたミニ集会での「薬物乱用防止ミニ講話」、明祥中学校での「薬物乱用防止教室」など出前講話にも力を入れてきました。特に、近年、若者の間で問題となっている「大麻の乱用防止」を重点として取り組みました。

令和6年11月9日、JAまつり会場で行った「麻薬・覚せい剤・大麻乱用防止運動」では、若者や若い家族連れの来場者を重点に、「薬物はダメですよ!」、「大麻はダメですよ!」と声を掛け薬物乱用防止を訴えたところ、啓発物品を受け取る方の様子を見て、指導員の中から

「少しずつ浸透してきたのかな」、「やりがいがあるね」といった声が出ていました。

また、指導員の知識習得のため、講習会の受講や自主勉強会を行い、12月16日は、「中部空港税関」へ出かけ、税関業務、入国審査、薬物の密輸入の実態などを勉強してきました。今後の活動の中で活かしていきたいと思います。



中部空港税関事務所前にて



JAまつり会場

更生保護サポートセンターの役割

センター長 杉浦 博之

安城保護区保護司会の更生保護サポートセンター(以下「サポセン」)は、本年度も順調に運営を進めてきました。現在も土・日・祝日以外ほぼすべての日で午前・午後各3時間ずつ開館しています。また、保護司会活動の円滑化、活性化などを目指して、当番担当者を中心に月1回企画調整保護司定例会議を開いて改善点等の話し合いを続けています。

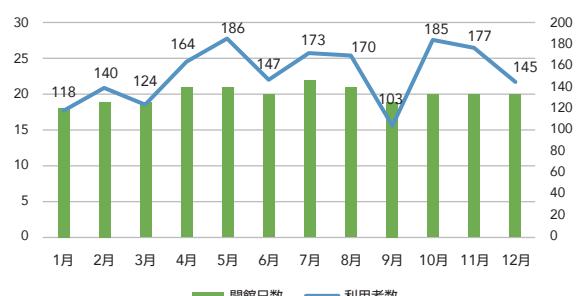
法務省では、サポートセンターを「地域における保護司活動の拠点」と位置付けており、その役割として、①保護司の行う処遇活動への支援、②地域に根ざした犯罪・非行防止活動の推進、③地域支援ネットワークの構築、④地域への更生保護活動の情報発信の4点をあげています。

それぞれの観点で本市の活動を簡単に紹介すると、
①相談活動や対象者との面接場所として活用できる相談室(サポセンB室)の設置
②地区ごとの社会を明るくする運動への取り組みや安城七夕まつり巡回指導など警察との連携、薬物乱用防止活動(ヤングキャンペーン)での保健所との連携

③関係4団体(保護司会、更生保護女性会、BBS会、協力雇用主会)における、研修会の実施や相互の活動への参加による協力体制

④中学校区ごとに実施する「ミニ集会」での保護司活動の紹介や意見交換会などを通した地域とのつながりの強化などがあり、それぞれの活動でサポセンが拠点としての役割を果たしています。

令和6年サポセン利用状況



地域で取り組む再犯防止

名古屋保護観察所保護観察官 西 真琴



保護司の皆様におかれましては、日頃より保護観察処遇や地域活動にご尽力いただき、ありがとうございます。昨年の大津での事件を受け、保護司の皆様とはこれまで以上に連携を密にし、様々な声に耳を傾け、主任官としても保護司の安全確保に取り組んでまいります。

さて、再犯者率の割合が、依然として5割近くで高止まり

しております、再犯防止が課題の一つとなっています。罪名別では窃盗、覚醒剤取締法違反、また、就労状況別では無職において、再犯率が他よりも高いとデータで示されています。対象者によって抱える課題は様々であり、個々に応じた指導・支援をするとともに、地方公共団体や民間協力者等との連携を一層強化する必要があります。簡単ではありませんが、対象者が地域社会に再び戻り、社会の一員として生きていけるよう地域の皆様のお力添えをいただけますと幸いです。引き続き更生保護活動へのご理解、ご協力をよろしくお願ひいたします。

新任・退任保護司紹介(令和6年度)

(敬称略・順不同)

退任に寄せて

挨拶 感謝

東山中学校区 保護司 井上 美子



平成16年、更生保護が何であるかもよく知らないで保護司を拝命し20年の歳月が過ぎました。その間対象者との面談、社会を明るくする運動、研修、他団体との活動など貴重な経験をさせていただきました。ここまで

諸先輩や多くの人たちに支えられて大過なく勤めることができましたこと、心から感謝申し上げます。

私は対象者との面談時、「挨拶と感謝」の心を大切にすることを伝えるようにしてきました。そして相手の心に踏み込みすぎず、少しでも本音が聴けるよう接してきました。満足のできる内容とはいかなくても、挨拶をして帰っていく後ろ姿を見送ってほっとしたものです。

今、更生保護活動の重要性が高まっています。保護司の皆様には益々ご尽力いただくと共に、健康でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

お疲れ様でした

鳥居 章二(安城西中学校区)
服部 和光(安城北中学校区)
山口 順子(安祥中学校区)
永田 博充(安城南中学校区)

弔 意 心より御冥福をお祈りします。

太田 安彦(安城北中学校区:R6.12.30亡)

新任に寄せて

今年度唯一の新人です

安祥中学校区 保護司 岡田 知之



安城市役所に奉職し、定年までの37年間の大半22年間を図書館に関わりました。退職後の再任用5年間こそ福祉関係の保育課に籍を置いたものの、保護司という言葉は聞いたことがあっても、どんな活動をしているのか全く知りませんでした。

そんな私が突然、保護司を拝命してただ戸惑うばかりです。昨年11月に、名古屋保護観察所で行われた辞令伝達式と新任研修に始まり、12月には、安城保護区の定例会・歓送迎会・新人研修、地元町内会の福祉委員会、1月には、県内日帰り研修と、どれもが私にとって新しい発見です。

これからは、先輩保護司の皆さんのご指導をたまわりながら研鑽と経験を重ね、保護司の職務を全うしたいと思います。新人保護司岡田をどうぞよろしくお願ひいたします。

【編集後記】

安城保護区保護司会は、1954年4月に碧海地区保護司会から分離独立して、2024年に70周年を迎えました。この節目の年を関係の方々と祝い、今の礎を築き発展させてきた先人たちの功績に感謝すると共に、会員同士や関係諸団体、地域とのつながりをさらに深め、犯罪や非行のない安全で安心な明るい地域社会を築いていきたいと思います。

また、2025年、「親しみのある、読み易い」を重点として編集された広報「みち」は、今回で20号の節目の号となりました。

共に多くの人たちに支えられての節目の年となりました。さらに力を合わせ、本会の発展を願い、努めていきたいと思います。

事務局 安城市役所 社会福祉課社会福祉係 安城市桜町18番23号 TEL0566-71-2262